

平成24年度 山口県介護支援専門員協会 常任理事会(第3回)
議事録

1 日 時

平成24年10月17日(水) 午後6時から午後9時まで

2 会 場

山口県セミナーパーク リハビリテーション実習室

3 出席者 7名

佐々木啓太 橋康彦 藤本邦和 松井康博 堀田慎一郎
田村則子 岩神亜紀

事務局 福祉人材研修部 主事 川崎真由美 職員 福本かおる

4 報告事項

- (1) 各部の活動状況について
- (2) 第9回山口県ケアマネジメント研究大会について

5 協議事項

- (1) スーパービジョンフォローアップ研修について
- (2) 山口県介護支援専門員協会賛助会員の創設について
- (3) 事務局の検討について
- (4) 予算執行状況について
- (5) その他

日本ケアマネジメント学会の山口での開催について

6 審議の経過

佐々木会長 挨拶の後、日本ケアマネジメント学会の山口での開催について話をした。

前回広島で開催された日本ケアマネジメント学会について下関の会員さんより連絡がある。

その連絡によると、広島で開催されたケアマネジメント学会の中で、山口で引き受けする話がなされているとのことであった。そしてそのことについて、橋本泰子学会長さんがそのつもりで考えておられるとのことであった。また、その会員さんからの連絡の内容では、大会委員長は県の介護支援専門員協会から出す必要があるのではないかとことであった。

日本ケアマネジメント学会については、大都市、地方と順番で開催しているようであり、今年度広島地方大会、次年度大阪で開催さ

れる予定となっており、候補にあがっているのは、その翌年であると思われる。

今後、県協会として、日本ケアマネジメント学会についてどうしていくべきか委員の意見を伺う。

岩神理事 山口はそもそも学会員数が少ないのではないかと。また本会と日本ケアマネジメント学会は別組織であるので、検討する段階ではないのではないかと。

橋副会長 学会では、確かに橋本先生とはお会いしたが、具体的な話までではないという認識である。

佐々木会長 別団体でもあるので、まずは、ケアマネジメント学会から正式に依頼がない段階では、動きようがないのではないかと。

岩神理事 当会の会計の脆弱さからすると引き受けるのは難しいのではないかと。

2006年に下関で開催したときは、後援や共催等をしているのか。

松井理事 2006年に下関で開催したときは共催であったと思われる。

岩神理事 メリットもデメリットもわからないので今の段階では検討できないのではないかと。

佐々木会長 県協会としては、今後、日本ケアマネジメント学会からの相談があれば、その段階で対応することとしたいが、現時点では、大会の実行委員長を協会から出すことは難しいのではという意見が委員の大半である。

現状の会としての意向を橋本先生に伝えておくべきだと思われるが、直接依頼もない状況でもあり、お会いできる機会もなかなかないと思われるので、今後検討していくこととする。

佐々木会長 続いて、各部の活動状況について報告を求めた。

岩神理事 基礎研修の参加者が104名で4名の方が全日程参加できず修了証が出せない状況である。前年度は全日程参加できる方のみ申込みを受け付けたが、今年度は最初から全日程参加できない方も受講できる形をとっている。

精神疾患の開催要項を発送しており、現在30名程度申込みがある。

部会が開けてない状況にあり、理事会までに部会を開催し、次年度の研修の組立について協議していく。調査研究部のアンケート意見も取り入れながら研修の組立を考えていく。

佐々木会長 研修の内容は濃いので、研修内容を精査し次年度につなげていけたらよいのではないかと。地域でできる研修に対して、県の役割を検討していくのがよい。

岩神理事 地域支部にも差があるので研修の組立については検討していく。
協議事項にもあるスーパービジョンフォローアップ研修について、前年度にSV初級編を受けられた方23名がSV実践編を受講されており、中間アンケートの結果を見ても、研修を通して学んでいく内に日々の不安が解消され自信につながっていることがわかる。
年に1度は実践編を受けられるように、今年度中に開催した方がよいか意見を伺う。

佐々木会長 初級編を受講しており、実践編を年度内に行うのはよいと思うが、3回シリーズを年度内に行えるのか。

岩神理事 部の中では急いである必要があるのかとの意見も出ているが、会の収支状況等から会の存続も考えると今年度と同じ研修が行えるのか、参加意欲がある内に現在の初級編、実践編受講者を対象に今年度内に研修を行えたらよいのではないかと。

事務局 3月が決算時期なので研修を3月に行うのは難しい。

藤本事務局長 SV1,2期生の受講者で懇親会も含め今年度単発で1回行えばよいのではないかと。

岩神理事 皆にバイジューの立場を経験してもらうことを目的の1つとしている研修なので、単発するのは難しい。

佐々木会長 今年度の総会で次年度計画を立てることの承認を得ているので次年度開催にするのがよい。

堀田理事 広報事業部について広報誌第1号を発行している。広告掲載が1社のみになり、今後広告を取っていくことが問題点としてあがっている。地域協会の研修案内を載せているので有効活用できるよう、県協会との研修と照らし合わせて研修の組立に役立てて欲しい。次

回の部会について広報誌第2号についてと、ホームページの管理等引継ぎについて検討していく。

佐々木会長 ホームページのメール配信について、HPを置いているサーバーにメーリングリストが付属されており、登録した方のアドレスが消える現象が起きている。会員に情報を一斉発信したいのでメール配信の問題についても検討していく。

田村理事 第2回調査研究部会で理事会の際アンケートをとり、地域毎の意見を今後の調査課題としてカテゴリ別に分類している。

研修体制について行政が関わっている地域、関わっていない地域で差が出ている。県の研修、地域の研修をつなげていく方法につながることはないか。更新研修等法定研修を県協会の研修と結びつけて、県協会の研修を終了した場合に法定研修が免除、考慮されることができないかを提案していったらよいのではないか。

今後アンケート調査の中で意見を絞り、地域、個人へアンケート内容を投げることについて意見が取れている。方向性として研修につなげていくことが見えてきた。

佐々木会長 県と地域の研修を整理していく部分で方向性が見えてきたのではないか。原点に立ち返って協会に何を求められているかが見えてきている。

田村理事 モチベーションを高める意味でも今後もアンケートを行っていく。

松井理事 公益事業部9月7日に部会開催しており検討項目として3項目の意見が出た。

社会資源情報をHPに掲載する件について、介護保険の申請書類等が掲載されているHPと県協会のHPをリンクを貼る場合、リンクを貼る際に承諾書を得た方がよいか意見を伺う。公益事業部の中では同意書をとった方がよいとの意見が出ている。

佐々木会長 現在のホームページでは承諾書がなくてもリンクが貼れることになっている。医師会がケアマネタイムを更新しており、圏域別に精査しているので、今後医師会のホームページにリンクを貼ることについて同意書が必要か。承諾を得る必要はあると思うのでメールなどの根拠があればよいのではないか。

- 橋副会長 リンクの貼付については取扱規定が書いてなければ登録可能なので承諾書は必要ないのではないかと。
- 松井理事 部中ではリンク先に制限がかかってないかの確認を行い、承諾のみで良ければ会長に連絡し、一方が必要な場合は事務局へ連絡する。
- 佐々木会長 今後は広報事業部、公益事業部にもホームページのリンク貼付についてレクチャーしていく。
- 松井理事 県協会からのおねがいについて研修等でアンケート意見を集計、カテゴリー分けし、対策、次年度の企画に活かせるよう声を返していけるよう精査した。制度上、サービスの質について解決する手立てについてはスーパービジョン研修会で悩み解決の手伝いにつながる研修を行う。各地域でスーパービジョンの自主グループができているところを参考にできるような情報提供をする。
- 岩神理事 県協会のスーパービジョンのバイザー登録をしている方には相談できるようになっている。
- 松井理事 災害対策について大災害をイメージして理事とデモンストレーションをし、企画を作るまでの段階で来年研修を行えるよう当初考えていたが、話を進めていくにつれて大震災を想像するのは難しく、県内で起こった防府の災害、宇部の水害等身近で起こりうる規模での研修を組み立てるのがよいのではないかと。年内に時間を作って理事の方とデモンストレーションするのが現実的であり、グループの中で情報、意見が出るようシナリオ、土台を作る。会の災害研修の落としどころとして大規模、小規模のどちらを想定するのか意見を伺いたい。
- 橋副会長 身近な災害の方がイメージしやすいのではないかと。
- 堀田理事 宇部の水害を体験し、水が引くのを待つ事しかできない状況、その後の断水等の対応等、細かい体験について考えていくのがよいのではないかと。
- 橋副会長 施設内のリスクはあるが地域に出たときのニーズについてまとめる必要がある。県内の災害で事例を出してもらいモデルケースを作る。
- 藤本事務局長 理事の方に対して一度研修モデルを体験してもらい、理事の方に

ファシリテータをしていただけるような形作りをする。

橋副会長 集まるタイミングとして、理事会、部会でする等検討していく。

佐々木会長 災害対策は課題になり、危機意識を持って対応していくことを念頭に置く必要がある。

総務組織部では県協会で防府フリーマーケット、美祢の福祉の市でブース作成。研究大会の申込み状況について100名程度になっているので声かけをお願いします。

藤本事務局長 賛助会員について県協会の規約に載っていないので、規約改正を含めて賛助会員の創設を検討していく。賛助会員になると大会の際のブース設置や、HPにリンクを貼る、発送物の資料封入、広告掲載等が出来ることとし、それで安定収入を得ていければよいのではないかと。賛助企業を探すのは難しいが、法人化に向けて来年度より賛助会員を創設していきたい。

松井理事 賛助会員は以前あったが省いた形になっている。

藤本事務局長 賛助会員については企業を対象に考えている。制度があればターゲットを絞れるので賛助企業枠を作るのがよい。会員に有用な関連業者のPR情報も掲載できるのではないかと。

佐々木会長 規約の追加については総会で承認を得る必要があるので次年度の総会で諮り、金額については細則で設ける。

藤本事務局長 収支状況について補正を組んだ次期から会員が40名程度増えており、研修の支出等も押さえている。ただ研究大会の参加人数を4000名で予算を組んでいるので近づけるよう声かけが必要。広告は大幅に増えており15社からの掲載をいただいているが、次年度のことを見据えて今年度はさらなる努力が必要。

田村理事 研究大会参加者を予算上の400名集めることに対してどうアピールしていくか。見通しについて。個人に向けては限界があるので、

団体、施設に向けてお願いしていくのがよい。

佐々木会長 老施協、老健協などつながりのある団体に声かけのお願いをする。

堀田理事 会員のための大会なので会員の人数3割を目指していくことも必要。

田村理事 周知しても会員が参加しない理由について何が原因なのか。

佐々木会長 魅力ある研究大会を作ることを視野に入れ、準備を早め次年度の講師についても今年度の実行委員の中で話し合うことが必要である。

と き 午後9時00分

この議事録の内容が正確であることを証するため、署名捺印する。

平成24年10月18日

山口県介護支援専門員協会

議 長 _____ 印

署名人 _____ 印

署名人 _____ 印